



最近話題のあの話。

耐震の性能は、「筋違い（すじかい）」の数を建物重量で割って計算します。仮に、重量が半分になれば耐震性能は2倍に向上する、というのが構造計算のルールです。

建物重量は荷重を拾って計算します。建築の世界では、面積や金額などを計算するためのデータ集めを「拾う」という言い方をします。荷重は、固定荷重（dead load）と積載荷重（live load）の2種類に分けて拾い、最後にそれを足し合わせてから割り算に使います。

固定荷重の **dead**（死んだ）という言葉も気になりますが、それは建築材料の重量のことです。例えば屋根材。瓦だと坪あたり **210kg**、トタンだと **66kg**、**20** 坪の屋根面積で約 **3 t** の差、つまり **20** 人の相撲取りが屋根に乗っているかいないかという違いになってきます。

もう一方の積載荷重は、家具や人間の重さです。実際の使用状況に関係なく、住宅では **1 m × 1 m** に **60kg**、つまり大人1人分の体重が、地震の計算では仮定されます。だから、物も人もない空き家は、数字よりもちょっぴり安全です。

心配なのは逆のケース。年をとると1階で暮らすほうが便利なので、不要なものを2階の空き部屋に押し込んでいるケースが増えますが、中には物がありすぎて2階が書庫や納戸になってしまい、積載オーバーとなっている家があります。

将来やってくる大地震が、いったい震度いくつなのか、正確な規模は誰にも分かりません。日ごろから書物や漆器類の重たいものは下階に収納し、布団や衣類などの軽いものは上階に収納するように心がけること。お金をかけずに理性的で、これも立派な地震対策です。